

2018若手職

楽しく

ついでには「仕事・生活の時間とゆとりを考えると」と題して、小松副委員長によるワークショップが開催されました。

日頃身近で切っても切れない自分の賃金や学び、日本の現状の

班対抗で文字並べ替えゲームや長文の伝言ゲーム、そして恒例となつたお名前ビンゴなどを行い、参加者みんなが終始笑顔が絶えない交流会となり、とても楽しく時間を過ごすことができました。

府民の公衆衛生を守り、水害に備えて

古代は湿地帯であった鴻池新田(東大阪市)一帯も現在は住宅街が広がります。駅から10分ほど歩くと寝屋川沿いに東部流域下水道事務所鴻池管理センターがあります。

広大な敷地には、下水道から流れてきた家庭排水などの汚水と雨水の処理場(鴻池水みらいセンター)があり、運転管理と設備保全を17名の職員が担当しています。

処理場には、汚水をきれいに再生し、川や海などへ戻す役割と雨水を集めて河川へ放流することにより、浸水を防止する大きな役割があります。

井方さん



安全に処理場の運転ができるように

大阪北部地震の発生から休む暇がなかったと話すと、集中豪雨のときは雨水を排除し、浸水の被害を防ぐために、日夜分かつた奮闘しました。

日々の業務は、維持管理に必要な部品や機械などの発注、設計が主で、雨の少ない渾水期には雨水を排水するためのポンプ施設のメーカー点検などを行い、日々府民の安全を守っています。そんな井方さんは、休日はトランニング(山岳レース)の大会に出るために山を走って鍛えているそうです。

りかことたいちの職場訪問

こんなところにも組合員⑤

東部流域下水道事務所 鴻池管理センター 設備保全担当 井方 和男さん 寺脇 剛史さん



連載



寺脇さん

先日の大阪北部地震や集中豪雨の被害の中、鴻池管理センターで働く井方さんと寺脇さんに取材しました。

今年4月に採用された寺脇さんは、友人と一緒に車の整備をするのに最

先輩から学んで現場対応に生かしたい

はじめはどんなことをするのだろうと緊張気味でしたが、お茶やお菓子が置いてあるリラックスできるような空間で、徐々に緊張がほぐれていきました。また、グループワークでみなさんと会話しながら進めていく中で、そ

大阪北部地震の発生から休む暇がなかったと話すと、集中豪雨のときは雨水を排除し、浸水の被害を防ぐために、日夜分かつた奮闘しました。

近ハマっいて、大好きなお酒はドクターストップされてると笑いながら話します。職場に配属されたときは、建物が古いことや手書きの図面に驚きながらも、日々勉強しながら働いています。

大阪北部地震発生時にはもう職場にいたという寺脇さんは、一人で電話対応などを行なったそうです。自分一人では判断できないことが多く、緊急時の対応の困難さを知ったと話します。「先日の地震と集中豪雨、管内の陥没対応等に追われていた。まだまだ学ぶことがたくさんあって大変だけど、自分が求められることであればどこでも行きたい」と話す寺脇さんからは、もっと現場へ行って、府民のために頑張りたいという強い思いが伝わってきました。

前回は府立病院に勤務している姿を知り「府民のために」という共通する思いが伝わってきました。当たり前のように生活の中に溶け込んでいく設備にもかかわらず、その役割の大きさは計り知れません。まさに「縁の下の力持ち」です。

人事委員会との懇談

府労組連(府職労・大教組)は7月27日、大阪府人事委員会との懇談を行いました。栗原委員長をはじめ、3人の府人事委員と事務局が対応しました。

厳しい職場実態を伝え、要求実現につながる積極的な勧告を強く要請

改善につながる積極的な賃上げ勧告を求めました。とりわけ、初任給をはじめ、青年層や再任用職員の賃上げ、非常勤職員の待遇改善を強く求めました。

長時間労働の解消に向け、保健所職場の多忙化による深刻な実態を示し、職員基本条例に定める「人員削減計画」が要因の一つであることを指摘し、業務量に見合う職員増で長時間労働の解消を求めました。

また、職場環境の悪化や仕事の多忙化によって、母性保護や育児や介護等の休暇制度が取得しにくい状況を明らかにし、仕事と子育てを両立させて、安心して働き続けられる労働条件の改善、快適な職場づくりに向けて全力で奮闘します。



初任給、再任用、非常勤の賃金水準引上げを

意見交換会の冒頭、府労組連より「2018年大阪府人事委員会勧告に関する要請書」を手交し、重点項目について職場実態も示しながら要求実現につながる勧告を行うよう要請しました。賃金引上げでは、昨年に21年ぶり人勧どおり実施されたことをふまえ、生活

相対評価の中止、長時間労働の解消を

相対評価の問題では、絶対評価「B」の良好な職員のうち、約2割が「下位評価」に落ちることになり、下位に落とされた職員の悲痛な声を紹介しました。職員のやる気とチームワークを奪う相対評価を直ちに中止するべきと主張しました。

人事委員からは「みなさんの熱い思いが伝わってきた」

「みなさんの意見も参考に、人事院勧告や民間調査の状況もふまえ、勧告に向けて作業を進めたい」とのコメントがありました。府職労は引き続き、生活改善につながる賃上げ、安心して働き続けられる労働条件の改善、快適な職場づくりに向けて全力で奮闘します。

医療の現場から

府民のいのちと健康を守る府立病院に ⑧

急性期・総合医療センター 松尾 こずえ

高次脳機能障がい患者さんと向き合って

リハビリ科ケースワーカー(MSW)の役割とその課題

大阪急性期・総合医療センターには、2007年4月に府立身体障害者福祉センター附属病院が移転統合され、府立障がい者自立センターや障がい者自立相談支援センターと連携をはかる「障がい者医療リハビリテーションセンター医療部門」があります。

一人では負担が大きく対応難しい

その部門の中で、高次脳機能障がいの支援普及事業の一部を担い、リハビリ科所属の非常勤1名

最近では外来相談件数の増加もあり、4月から週5日勤務の後任MSW(非常勤)が採用され、若干は改善されましたがまだまだ不十分です。中途障がいである高次脳機能障がい患者をとり

支援体制の充実 3機関の連携を

病院内の支援体制の充実に加え、3機関が連携を深めていけば、患者や家族のニーズに対し、よりきめ細やかな対応が行われ、障がいはいはあっても社会の中でしっかりと生きていける環境づくりに貢献できると考えます。

患者の抱える様々なニーズに対し、一人のMSWに業務負担がかかりすぎないように、高次脳相談に関する相談員配置体制の充実を組合員として求めたいです。

